

2025年度（令和7年度）学校評価自己評価表

大成館中学校区	校番 28	福山市立神村小学校
最終更新日		2025 年（令和7年）4月1日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ・校区や各校の課題や目標を保護者・地域で共有しながら協力して学校づくりを行っていくことが大切である。 ・自己肯定感を高める取組を継続してほしい。 ・長期欠席児童生徒の対応は、学校だけではなく、公共、民間等、多様な学びの場の選択肢を増やすことが大切になる。	児童生徒の現状 ・全国学力調査では、校区小中学校で意識調査は改善傾向にあるが、学力の定着にはまだ課題がある。 ・主体的に物事に取り組もうとする児童・生徒が多いが、自己表現力や相手を思いやる表現力に課題がある。	育成する力 資質・能力 めざす子ども像 義務教育修了時の姿 中学校区として統一した取組等	【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】 ・確かな学力を身につけ、自ら進路を切り拓く子ども ・自己肯定感や相手を思いやる意識が高く、社会に貢献できる子ども ・「主体的な学び」の授業づくりや家庭学習を含めた学習習慣づくりに取り組み、学力を向上させる。 ・「自分で選び・決める活動」に取り組み、自己表現力や自己形成力を向上させる。 ・全教育活動を通して、自己肯定感や相手を思いやる心を育てる。
--	--	--	---

III 自 校

ミッション 心豊かに自立・貢献・感謝する児童を育成し、保護者・地域から信頼され、共に歩む学校	育成する 資質・能力 めざす 子ども像	【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】 ・確かな学力を身につけ、自ら進路を切り拓く子ども ・自己肯定感や相手を思いやる意識が高く、社会に貢献できる子ども
学校教育目標 心豊かに自立・貢献・感謝する児童の育成	研究 めざす授業の姿	テーマ 子ども主体の学びの創造 内容等 一算数科の教材分析シートの作成を通してー ☆2つの「教材研究」の取組☆ ①児童の「つまずき」の分析 ②教材分析ノートの作成 ☆導入・問題提示の工夫 ☆予習型授業の展開の工夫 ☆共に高まり合う学習集団づくり ☆家庭学習の充実を図る工夫 ・教職員実践発表研修会の取組 【めざす授業】・主体的に学ぶ授業 ・学力向上をめざした授業 【合言葉】学校は励ますところだ大作戦 2025「遮二無二」 ー「ほめて、認めて、励ます」指導に貫かれた神村小学校ー 【3つのYELL！を意識した授業づくり】 (1) 誇れる学校 YELL！ 温かい人間関係を育む授業 (2) 新たなことに「挑戦」する学校 YELL！ ①「1人1プロジェクト」に挑戦 ②「コミュニティスクール」に向けた取組に挑戦 ③「3つのM」の取組に挑戦 ※Mとは「自ら考える」※3つとは「表現する子」「やりきる子」「関わり合う子」 (3) 信頼される学校 YELL！ ①傾聴と温かい接遇 ②選択と集中
現 状 ＜児童生徒＞ ○主体的な学びや活動を通して、児童の自己肯定感が高まり、学力向上、長期欠席者の減少などの課題が少しずつ改善してきた。 ●本年度も、学力向上、長期欠席者の減少が課題である。 ＜授業＞ ○2つの「教材研究」の取組を通して、これまでよりも、つまずきを把握し、児童一人一人の実態に応じた授業が徐々に展開できるようになった。 ●「子ども主体の学び」を目指し、さらに、教材研究に取り組む必要がある。 また、授業の中で、温かい人間関係を育てていきたい。		

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立神村小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況 ☆指標に対する状況 ○成果▲課題	力以 評価	達成 評価	○改善方策	□指標に係る取組状況 ☆指標に対する状況 ○成果 ▲課題 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力以 評価	達成 評価	総合 評価	○改善方策
4	「主体的な学 び」の授業づ くりを進め て、学ぶ意欲 と学力を向上 させる	★	継続	「子ども主 体の学び」を 目指した授業 づくりを通して、 学ぶ意欲と学力 向上を図る。	・2つの「教材研究」 ①児童のつま ずきの分析② 教材分析シー トの作成の取 組を通して、「主 体的な学び」の 授業づくりをする。	・2つの「教材研究」 の取組の教職員実践 発表研修会の実施 (8月、12月) ・学年に応じた時間 の家庭学習をしてい る児童 80%以上 低：30分 中：40分 高：50分 ・「なぜだろう、やっ てみたいと思う」と 回答する児童 80% 以上 ・学力調査で市平均 以上									
			継続	「ほめて、認 めて、励ま す」指導で、 体力向上を 図る。	・体育の授業、 体育的行事に おいて、児童 が主体的に学 習する場面を 設定し、主体 的な姿を「ほ めて、認め て、励ます」 指導をする。 (教職員の回 答90%以上)	・体育の授業を主体 的に取り組んで楽し かったと回答する児 童 85%以上 ・前回の計測時に比 べて50m 走のタイ ムが縮まった児童 75%以上									
4	教 職 員 の 資 質・能力を向 上させる		継続	3つのY E LL「誇れる学 校」「新たな ことに挑戦 する学校」 「信頼され る学校」の実 現に向け、主 体的に取り 組む教職員 になる。	・教職員が1人 1プロジェクトを推進し、主 体性を持ち、よ りよい学校づ くり貢献する。 ・「神村100 『人』教育よ うこそ先輩」 のねらいに沿 った授業を実 施する。	・「仕事にやりがい を感じている」教職員 の割合95%以上 ・年間6年生 5名 以上、1～5年 各 2名以上の講師の招 聘									

[illegible]

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評価点	評価基準	評価点	評価基準	評価点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。